

東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトニュース “黄色いハンカチ”

【発行者】

松戸・東北交流プロジェクト(代表:古宮保子)
〒271-0092 松戸市松戸 1834- 5 小川ビル 2 階
TEL: 047-710-5519 FAX: 047-710-5546
E-mail: fnm2011@r4.dion.ne.jp

交流サロン黄色いハンカチ2013の歩み



2 月 本郷谷松戸市長を招いてサロンオープニングセレモニー。



6 月 福島県浪江町民避難者交流会を開催。副町長も出席。



8 月 坂川献灯祭りでの紹介と三陸ワカメの販売。



サロンでの講座・イベントにも多くの避難者が参加。



2014年を希望の年へ

東日本大震災復興支援 松戸・東北交流プロジェクト
代表 古宮保子

避難者の皆様、並びにこのサロンにお心を寄せてくださる松戸の皆様
明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

この3月で、あの東日本大震災から3年が巡ってまいります。

『石の上にも3年』ということわざがあります。3年を迎え避難者の皆様の冷たかった石は温められたでしょうか。どんなに温めようとしてもなかなか温まらないと拝察しています。

省みますれば24年9月、避難者の皆様からのご意見①避難者どうし・同郷どうしの交流の場がほしい、②気軽に相談できる場所がほしいなどがありました。

この交流サロン『黄色いハンカチ』も写真の通りオープニングセレモニーから1年を迎えます。これまでは大勢の方に来訪頂きたく、居心地が良く楽しい居場所を目標に運営して参りました。お蔭様でサロン来訪者数も増え初年度の目標は果たされつつあります。

さて、私どもサロン運営者は、2年目以降の運営について模索を始めています。浪江町復興支援員の方の言葉が、心を掴んで離れません。「いずれ、このサロンも終わりの時を迎えます。官公庁もこの事業が終わる時が来ます。その時、避難者の皆さんがどう生きていくか、今からその準備を応援するのが私たちの役目」という内容でした。

一方、避難者の方々の悩みは個々に違ってきています。当初の悩み衣・食・から個人では解決が難しい悩み『先の見通し・放射能のこと・生活を支える経済・体調のことなど』が深く重くなっています。私たちスタッフは、どのようなお手伝いが出来るか、市民の皆様にはどんなお力添えを頂きたいか、一歩進めた提案をして参りたいと思っております。少し疲れたな・・・静かな環境に居たい・・・と思う方も訪ずれやすい柔らかく丁寧なサロン運営日も考えています。

最後に、今後避難者の皆さまと大震災の記憶を記録として綴りたいと思っております。皆様のご意見は如何でしょうか。



9 月 避難者と浅草をバスで観光。スカイツリーをバックに撮影。



11 月 千葉県全域に避難をしている人と一緒にマザー牧場で交流会。

松戸東北交流プロジェクトの活動理念

2011.3.11の東日本大震災以降、松戸市内には300人を越える避難者の方が居住するようになりました。津波・原発による被害を被ったご家族です。1年6ヶ月を経た今でも100世帯の方が帰還を果たせずに松戸市内にいらっしゃいます。そのご家族は、みなし仮設住宅で松戸市内にばらばらに居住しています。

これまで私たちは震災以降、団体・個人がそれぞれに被災者支援活動を続けていました。その活動の中で、被災者の思いに添った長期的な支援活動の実現を模索してきました。出逢いの叶った避難者の皆様との交流の中から、①被災者同士の話し合いの場がほしい ②故郷の情報が知りたいなどの要望があることを知りました。そのような支援活動の中で、私たちはグループを立ち上げ、松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」の拠点を設け運営をしていくことが実現しました。

松戸の地で、心の苦しみを語り合い・生活者として少しでも穏やかに過せますよう、あらゆるネットワークを駆使して心の拠り所になるような「居場所」にしていきたいと思ひます。私たちは「困った時はお互い様」の精神で、自らもエンパワーメントしていきまひます。交流の叶った避難者の皆様方の『個人情報』は大切に守秘義務を守り律して活動を推進してまいります。(2012年12月16日設立趣意書より)